

奈良・薬師寺旧境内

- 1 所在地 奈良市西ノ京町
- 2 調査期間 平城宮跡第二九三―八次調査 一九九九年（平
11）三月～四月

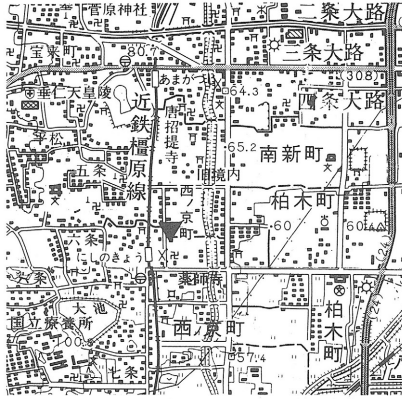
3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部

4 調査担当者 代表 田辺征夫

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 古代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(奈良・桜井)

調査地は、平城京右京六条二坊八坪にあたり、薬師寺の旧境内地である。玄奘三蔵院（一九八三年度発掘調査区）の北西に位置し、奈良時代の「苑院」の推定地である。中世以降は子院が建ち並び、一七世紀後半の絵図によると福蔵院が所在していた。今回、薬師寺法具蔵建設に伴い、東西約一八m南北約九

m、合計一五八㎡を発掘した。

その結果、掘立柱建物数棟・井戸四基・溝四条・土坑多数を検出した。調査区西端で検出した南北溝SD二七一〇は、薬師寺造営当初に開削され、一〇世紀頃まで機能した溝。苑院区画の西側溝である可能性がある。また、調査区西半で一世紀後半～二世紀中頃の掘立柱建物を五棟検出した。うち一棟は礎石建物の可能性がある。さらに調査区中央で検出した石組井戸SE二七二〇は、最下部に幅二〇cmの板材を敷き、大小の曲物を上下に重ねる構造である。

木簡一点が出土したのは、調査区中央北辺で検出した井戸SE二七一五の底部堆積土からである。井戸枠は既に抜き取られていたが、抜き穴から一〇世紀中頃～一世紀後半の土器・瓦が出土している。木簡の年代もそれ以前の平安時代か。

8 木簡の积文・内容



墨付きは表面だけで、一行書きに仮名かと思われる割書が確認できるが、全体的に墨の残りが悪く、釈読不能である。

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所年報一九九九―
III』（一九九九年）（山下信一郎）